Financial Village Presence LLC.

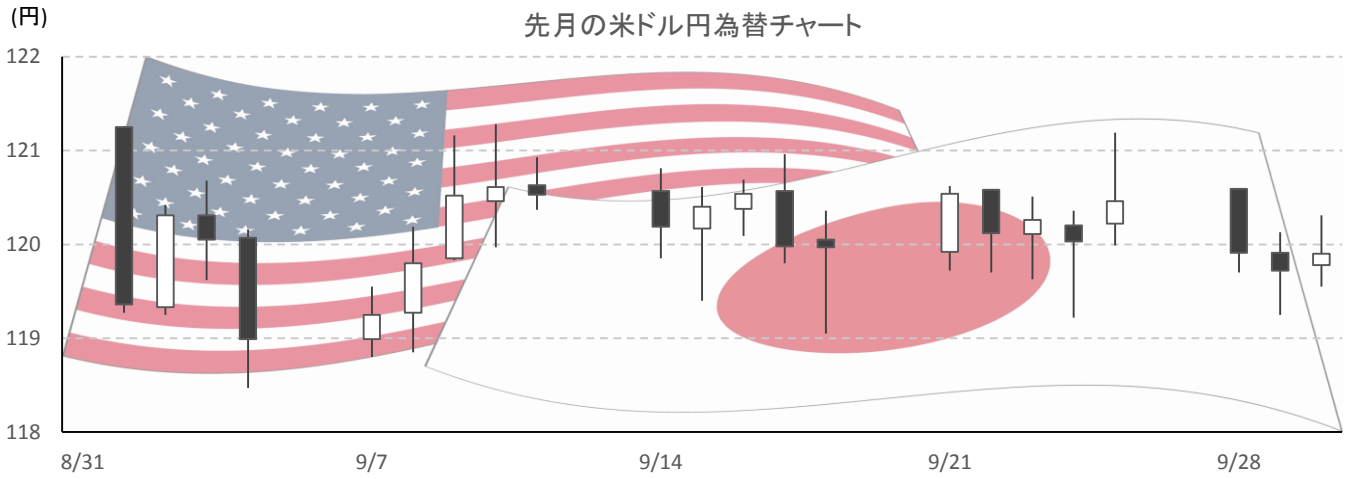
ご参考資料

News Express

2015年10月号

MARKET REVIEW

先月の振り返り： ドル円相場は118円台後半から121円台前半のレンジで推移した。中ごろ、9月のFOMCで、ドル円は120円前半まで下落し、イエレン議長の会見後は、120円を割り込んだ。その後、利上げ見送りが尾を引き一時安値119.05円まで下落したが、ポジション調整から120円近辺まで急反発した。連銀総裁らが利上げに前向きな姿勢を示し、米金利が上昇するとドル円も120円台後半まで上昇。ただその後は、中国経済に対する不透明感が強まりアジアの株式市場が軟調推移となったことから、ドル円は上値重く推移。米8月耐久財受注の悪化を受け再び119.21円と119円台前半をつけ、最後まで方向感が定まらなかった。



EXTRA VISION

今後の展開： 9月のFOMCでは利上げが見送られたが、イエレン議長をはじめ、年内の利上げ発言が繰り返される中、可能性は低いが、10月の利上げも完全には排除出来ない不透明な状況が続く。新規失業保険申請件数などからは、アメリカ労働市場の緩やかな改善が継続していることが示唆されており、ある程度の結果は期待出来るものの、10月の利上げを決定づける程の数字は期待できないだろう。引き続き、年内の利上げ時期に対する不透明さが残るであろうため、ドル円に方向感が出るにはまだまだ時間がかかりそうだ。今月も経済指標、要人による講演等、多数のイベントを控えており、一喜一憂しながら方向感を探ることになりそうだ。

テクニカルアイ

指標名	一目均衡表

一目山人が考案し、文字通り一目で相場の均衡状態を捉えるテクニカル指標です。一目均衡表は、テクニカル指標の中でも特に複雑で、すべては書ききれません。そこで判断基準の一つで用いられる雲を説明します。

本書面は、合同会社フィナンシャルヴィレッジプレゼンス（以下「当社」）が、投資一般に関する情報提供を目的とするものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。本書面に記載されている情報には将来的な業績や出来事に関する予想が含まれていることがありますが、それらの記述はあくまで予想であり、その内容の正確性、信頼性等を保証するものではありません。また、情報の正確性については万全を期しておりますが、その正確性、信頼性等を保証するものではありません。投資に関するすべての決定は、ご自身の判断でなさるようにお願い致します。本書面に記載されている情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切の責任を負いません。